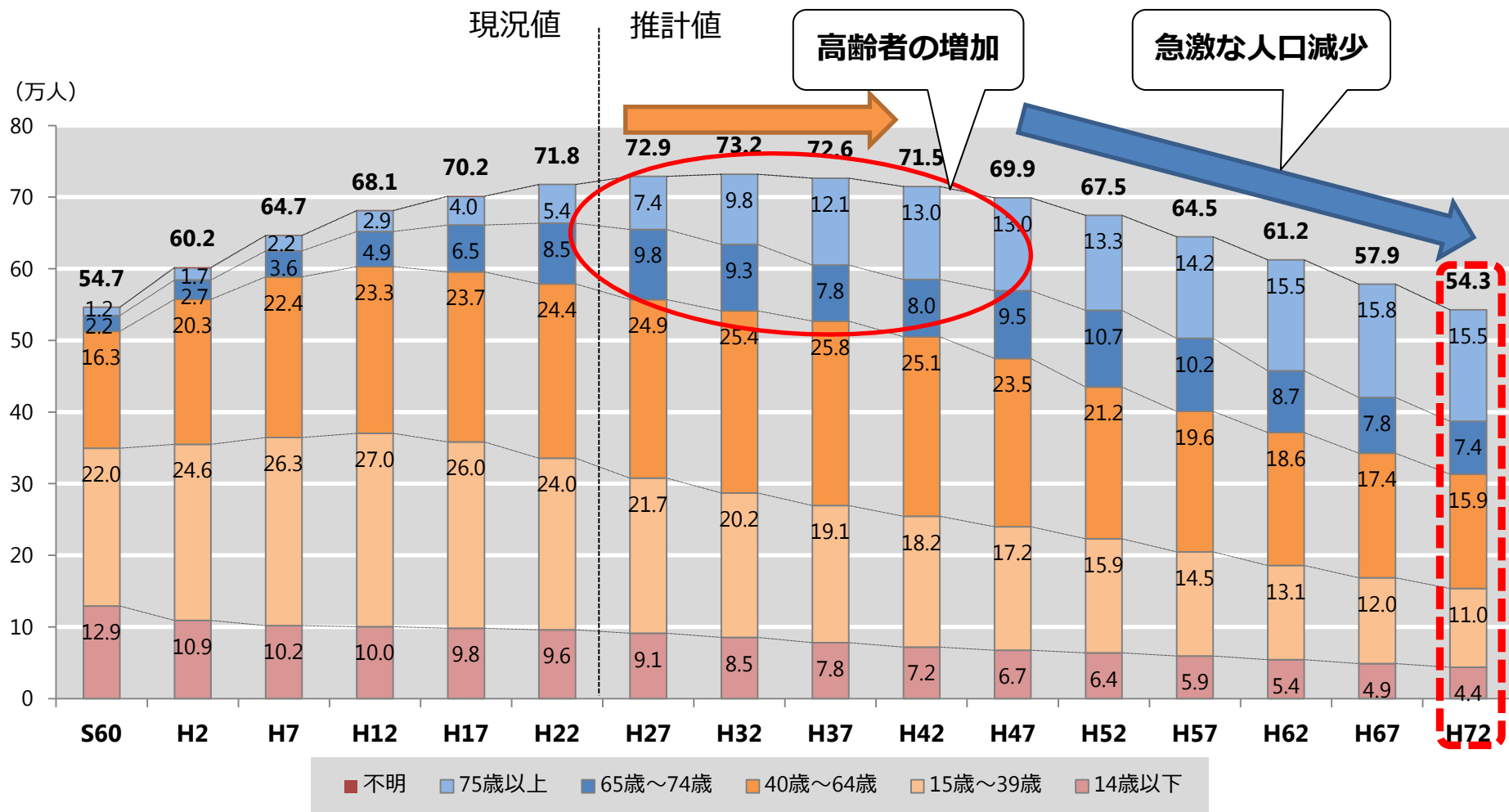


本市の人口、施設需要見通し（平成28年度分析資料）



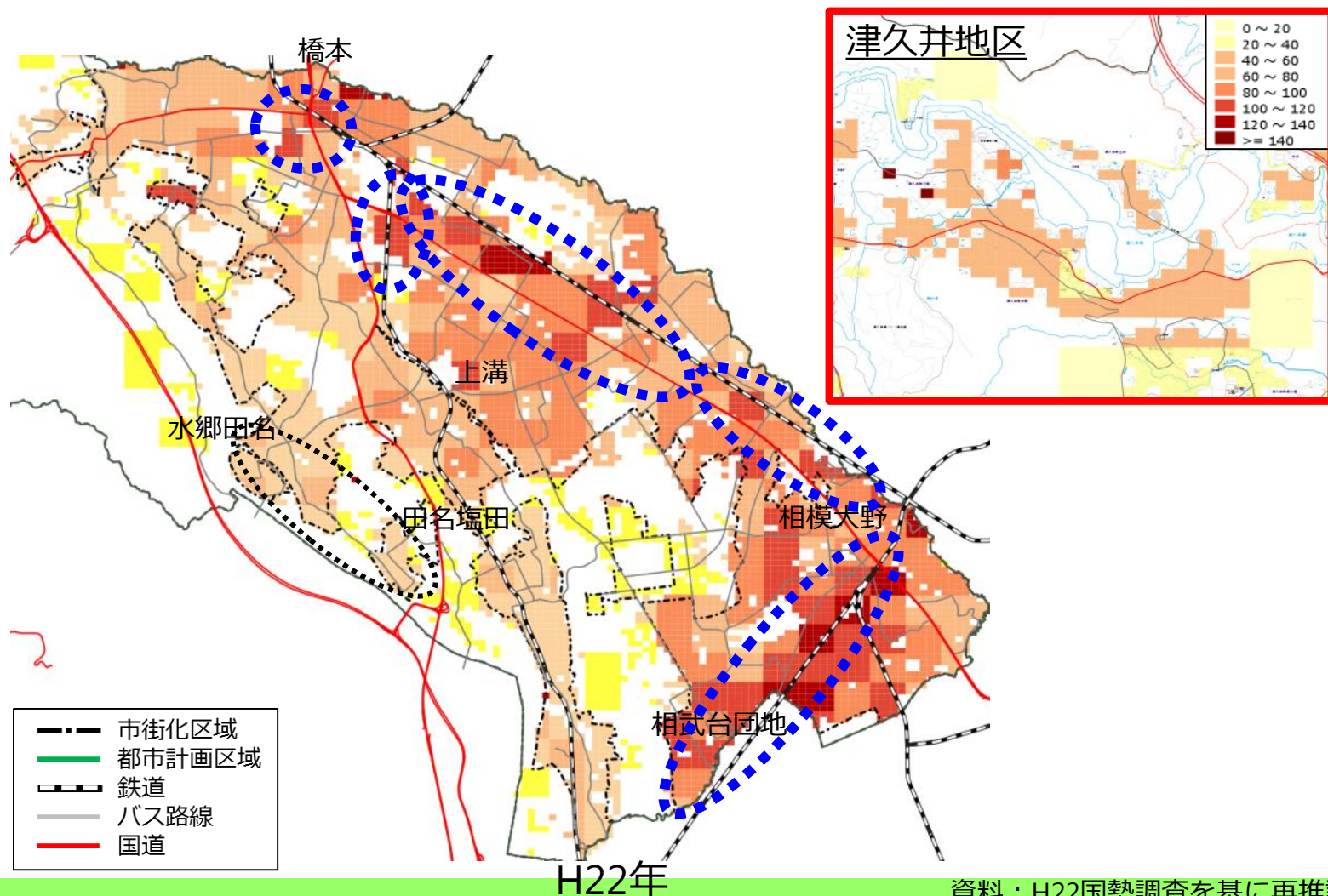
相模原市全体の人口動向

H42年（20年後）まで：高齢化が進行。総人口の大幅な減少は見られない。
H42年（20年後）以降：総人口は減少に転じ、H72年には約54.3万人となる見込み。



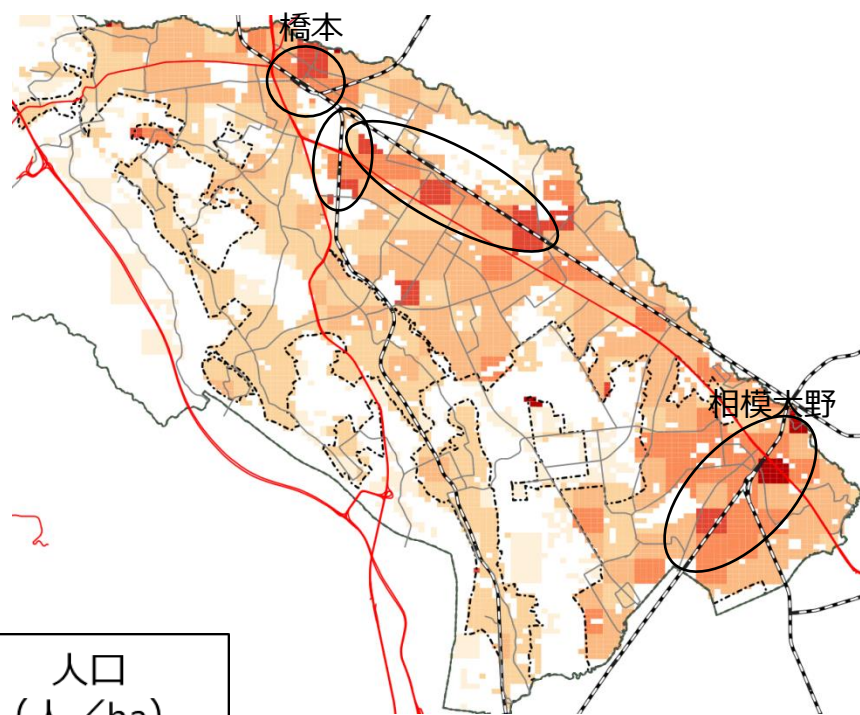
H22年の人口分布

- 小田急線、JR横浜線沿線等の交通利便性の高い地域で人口密度が高い。
- 郊外化が進んでおり、田名等の相模川付近の鉄道駅から遠い地区にも一定の人口がはりついている。



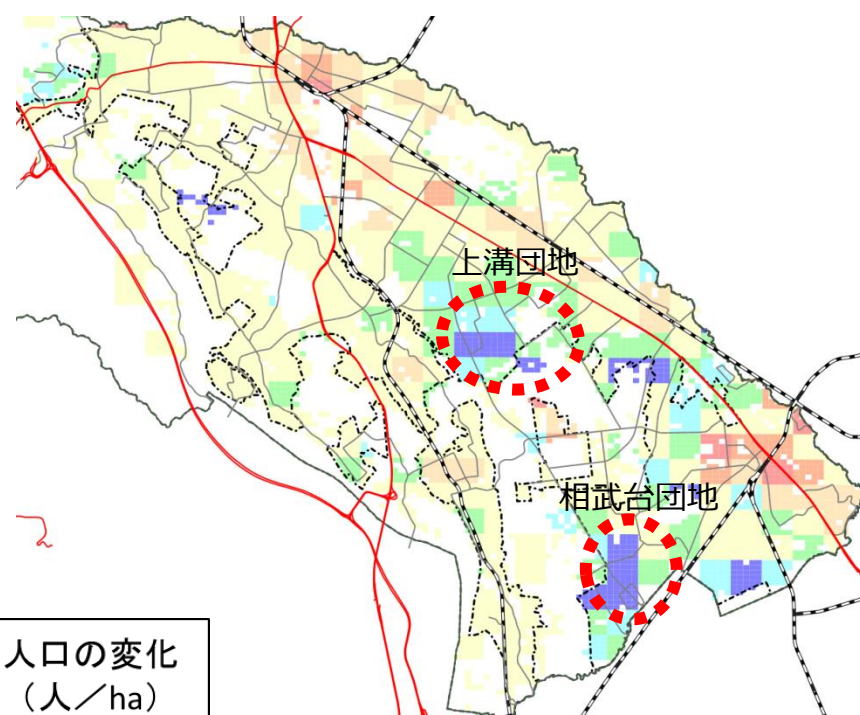
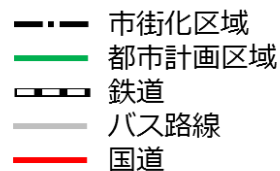
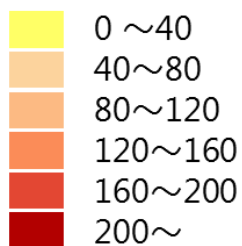
H42年の人口

- 20年後（H42年）でもH22年と同様に、小田急線や横浜線沿線で人口密度が高くなる見込みである。
- 上溝団地や相武台団地周辺では、人口減少が進む見通しである。



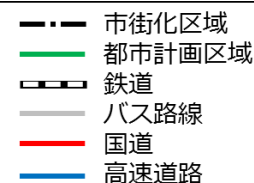
H42年

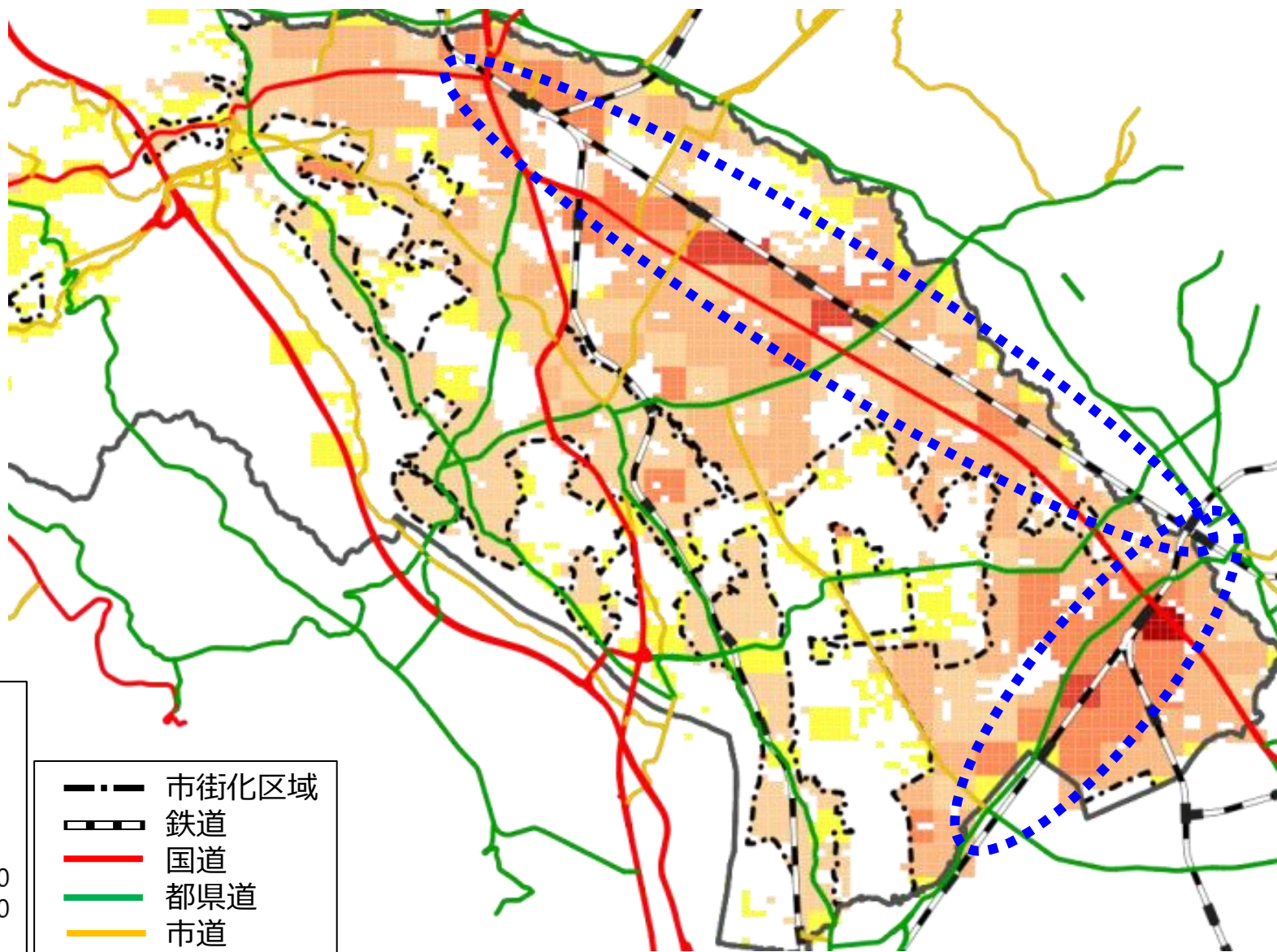
人口
(人/ha)



H22年→H42年

人口の変化
(人/ha)





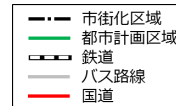
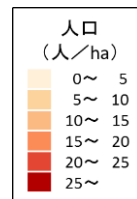
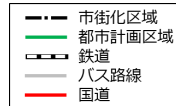
人口密度 (人/ha)	
0 ~ 40	市街化区域
40 ~ 80	鉄道
80 ~ 120	国道
120 ~ 160	都県道
160 ~ 200	市道
200 ~	

年少人口と高齢人口の分布

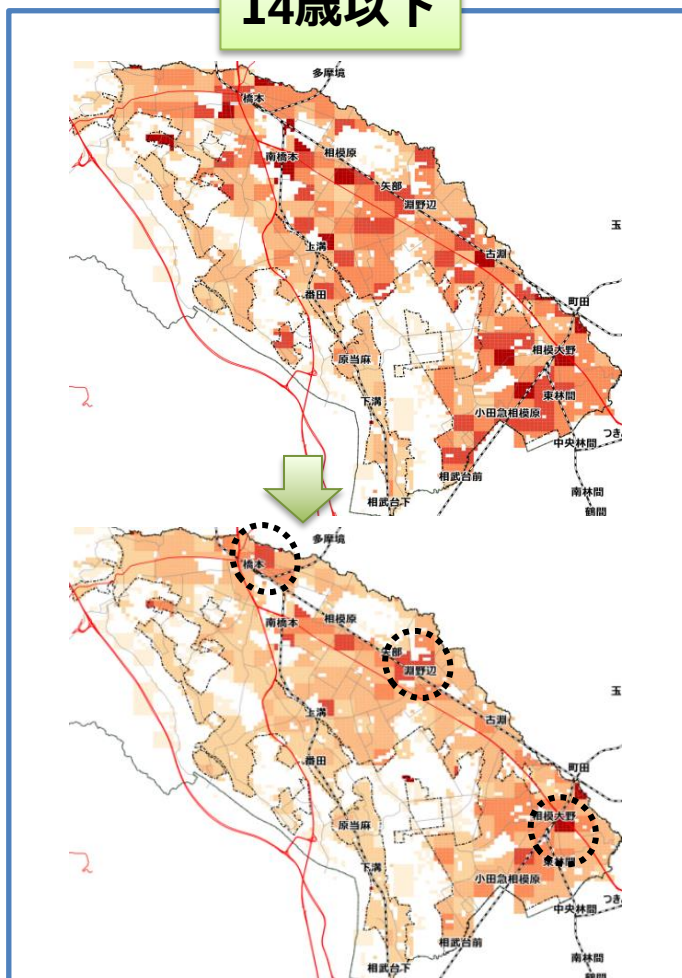
- 一部の鉄道駅周辺のエリアを除き、市街化区域全域で年少人口は減少の見込みである。
- 後期高齢者は市街化区域全域で増加する。特に、開発年次の古い団地周辺では顕著である。

平成
22年

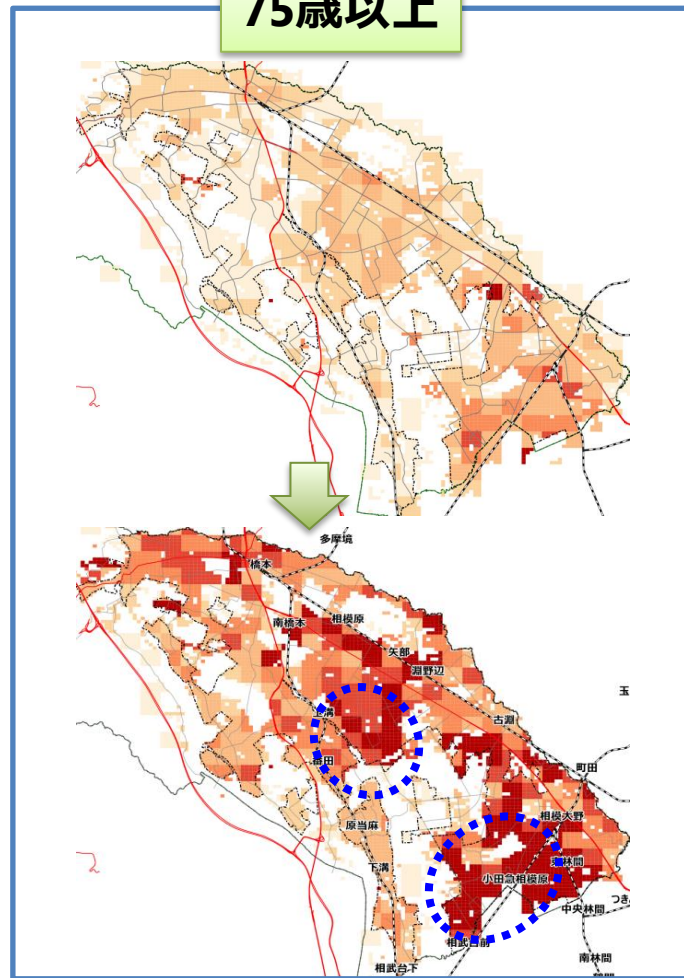
平成
42年



14歳以下



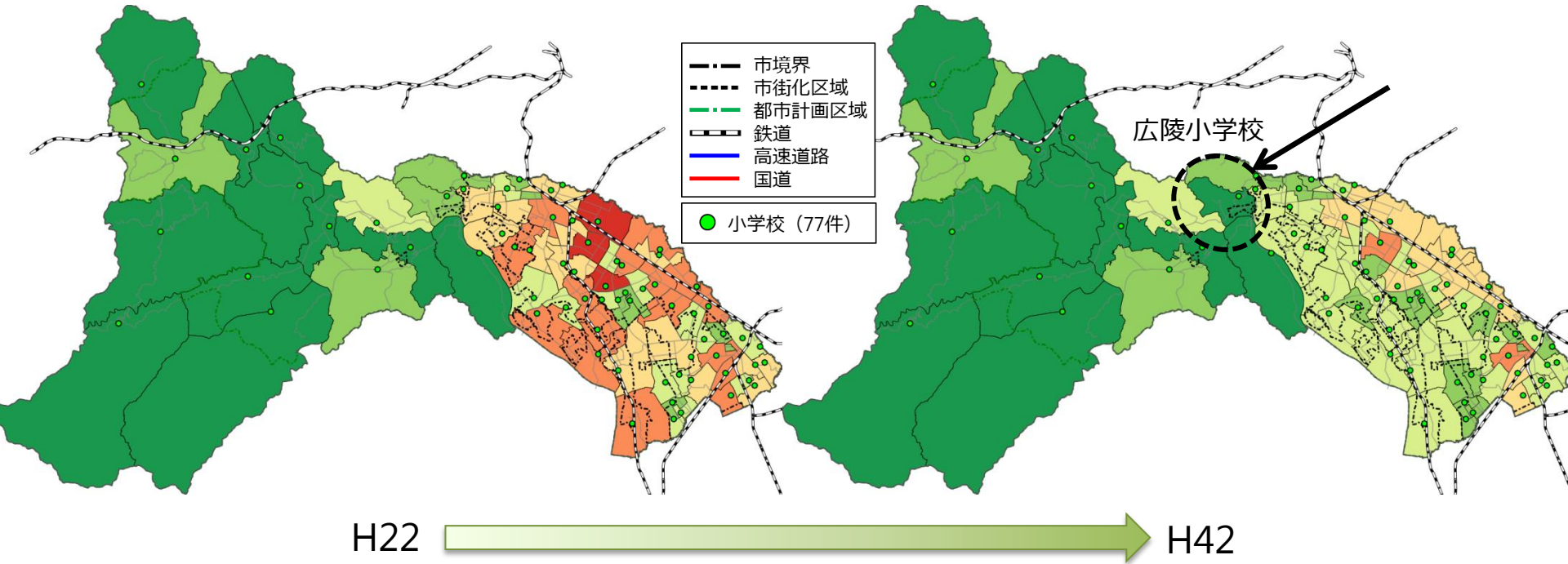
75歳以上



資料：H22国勢調査及びさがみはら都市みらい研究所で将来推計を基に再推計

生活サービスの維持 学校の配置状況（小学校）

- 年少人口が市全域で減少することにより、市街地であっても、1学年1学級以下となる小学校が生じる可能性がある。



※1学級30人を想定

1学年1学級以下

1学年1~2学級

2~3学級

3~4学級

4~5学級

5学級以上

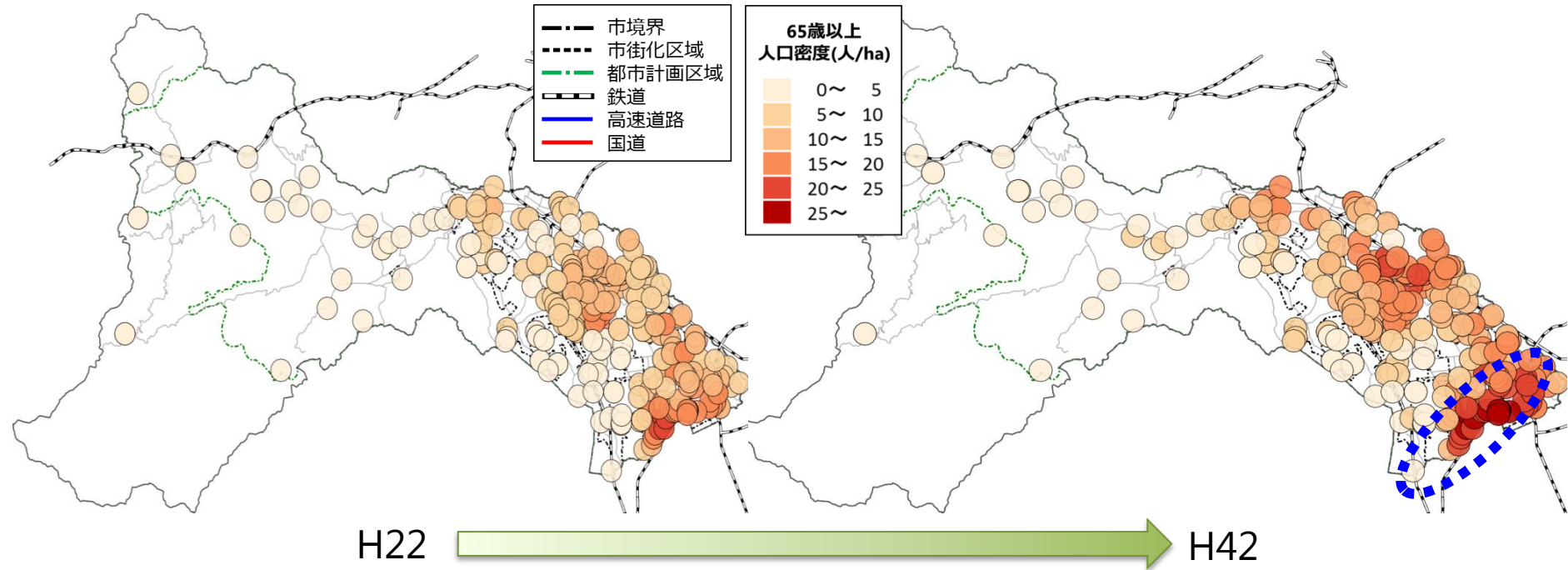
小学生人口[人]

0	~ 180
180	~ 360
360	~ 540
540	~ 720
720	~ 900
900	~

学区ごとの小学生人口の算出方法

- 小学校区ごとに年少人口を集計
- 年少人口(0~14歳)を6/15倍し、小学生人口とした。

- 特に、高齢者の人口が多い鉄道沿線で高齢施設の需要が増加する見込みである。



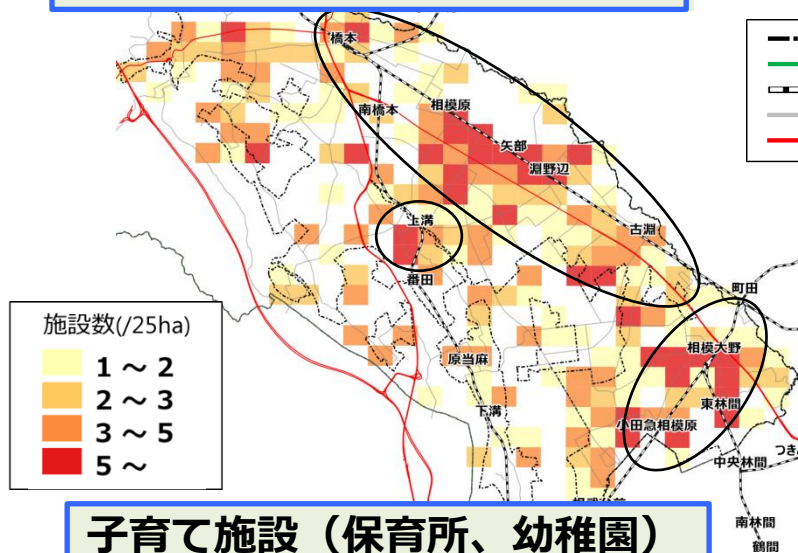
高齢者福祉施設の圏域人口

- 対象施設の半径500m以内に原点があるメッシュの高齢者人口及び人口密度を算出した。
- 相模原市外の人口を考慮していないため、市縁辺部では圏域人口が少なくなる傾向がある。

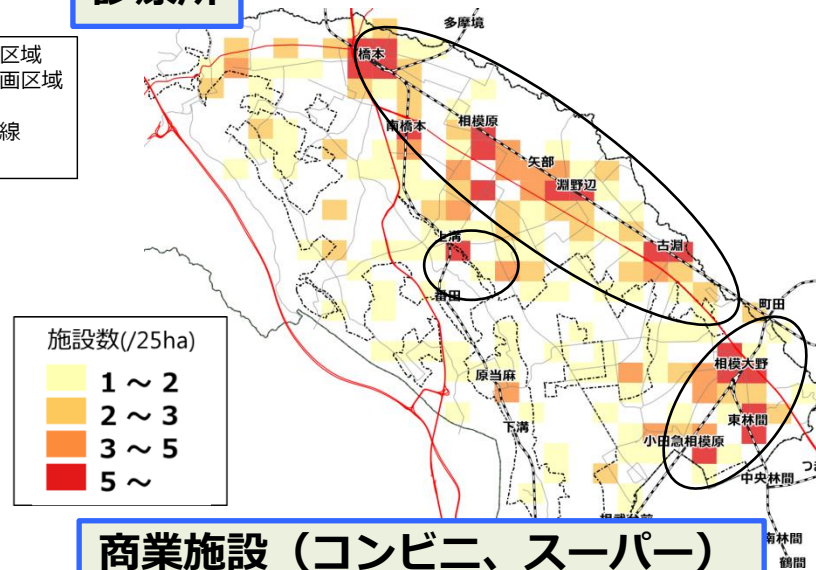
生活関連サービスの受けやすさ（施設分布）

- 高齢者福祉施設、診療所、子育て施設、商業施設は横浜線、小田急線、相模線の駅周辺に生活利便施設が集積。

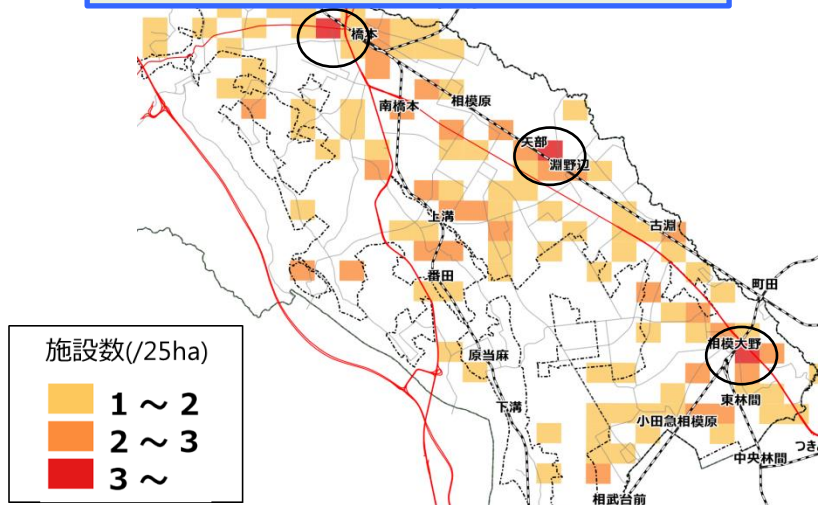
高齢者福祉施設（通所、訪問）



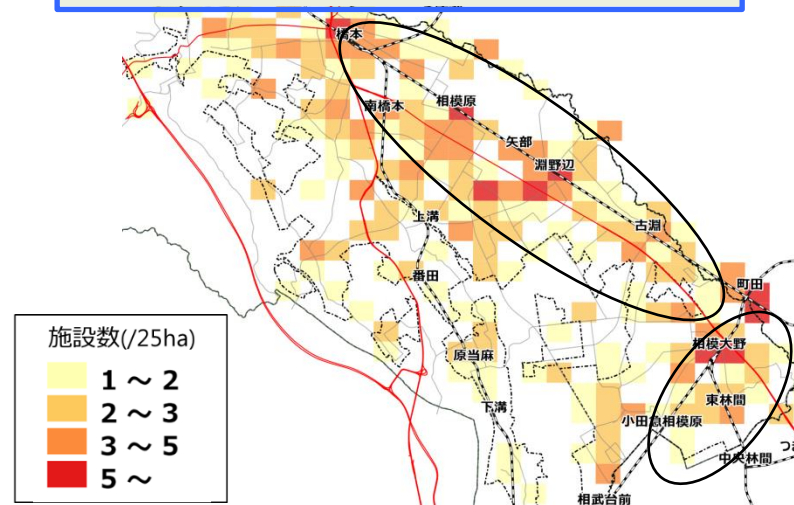
診療所



子育て施設（保育所、幼稚園）



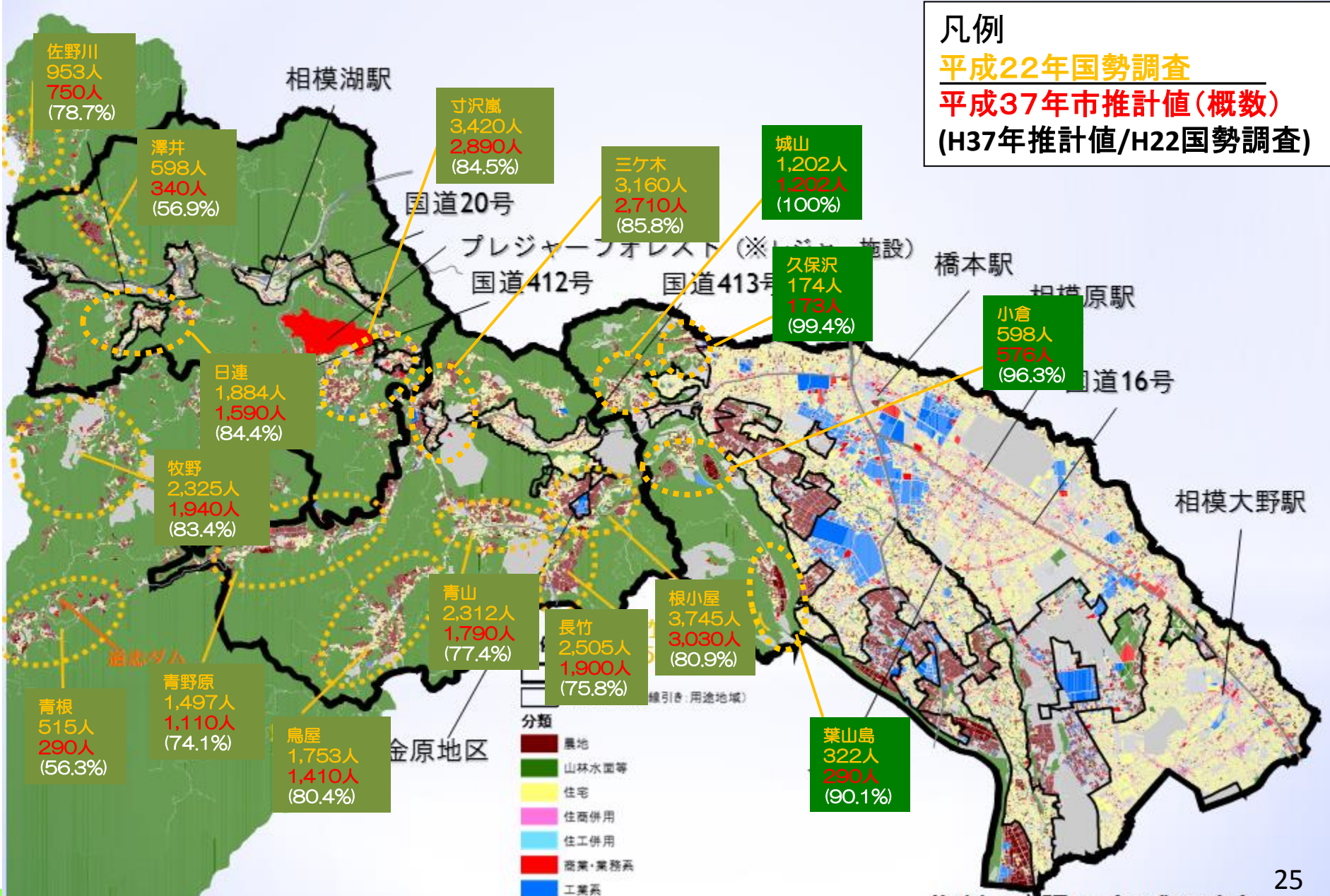
商業施設（コンビニ、スーパー）



中山間地域の分析

中山間地域の人口動向

凡例
 平成22年国勢調査
 平成37年市推計値(概数)
 (H37年推計値/H22国勢調査)

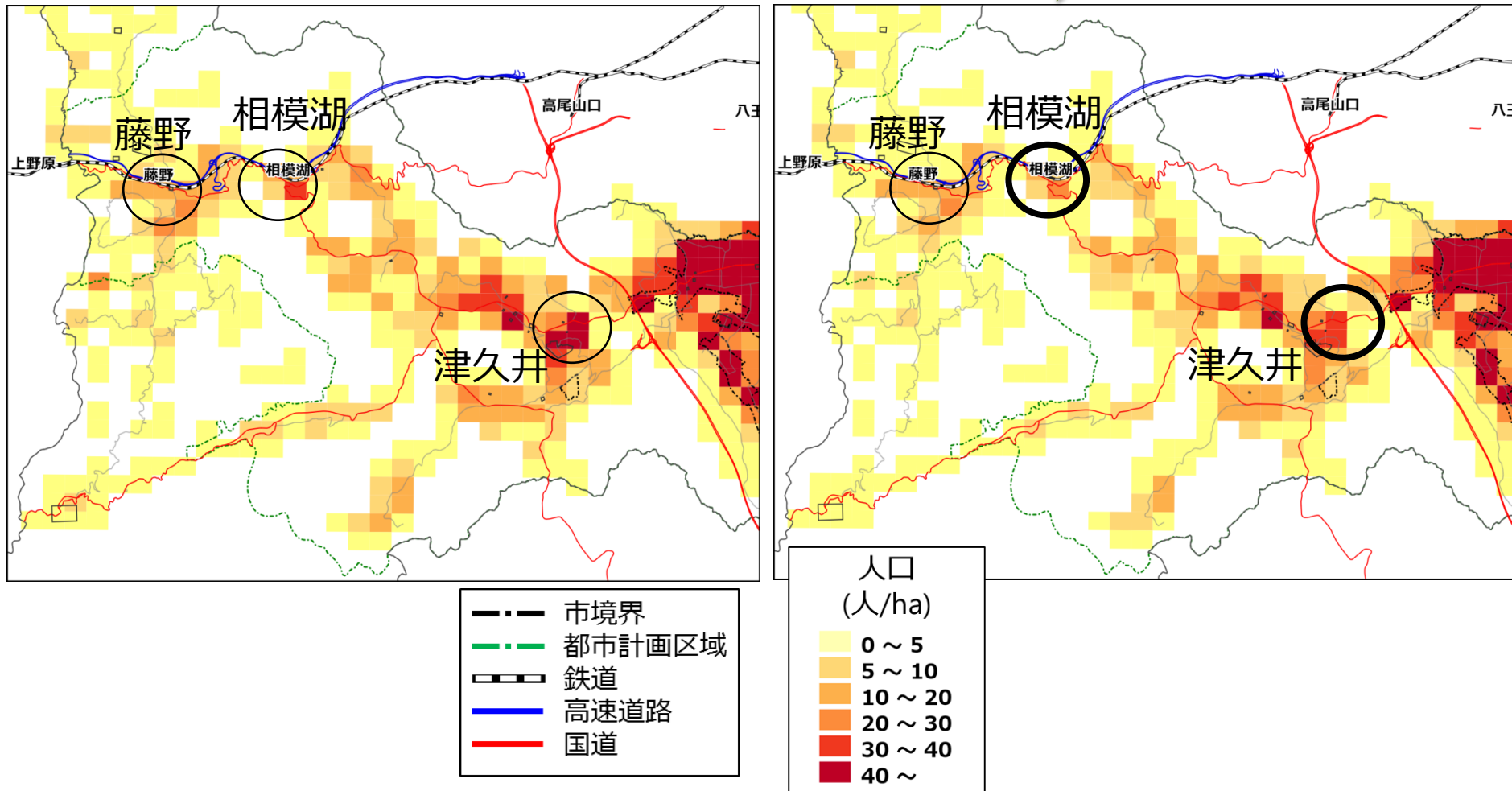


資料：市調べ(平成22年)

全年齡階層人口の変化（H22→H42）

- 全体的に人口密度は低い中で、津久井、相模湖駅、藤野駅周辺に人口が集積している。
- H42年にかけて、さらに人口減少が進む。

H22年  H42年



年少人口と高齢人口の分布（中山間）

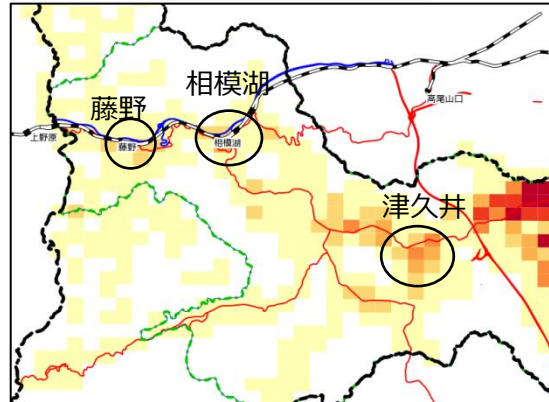
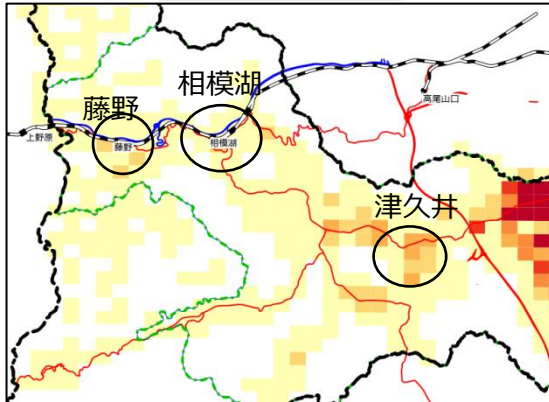
- 中山間地域では、現時点でも14歳以下の人口が少ない状況である。
- 特に、津久井地域では、H42にかけて後期高齢者の増加が見込まれる。

14歳以下

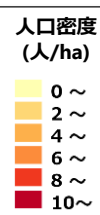
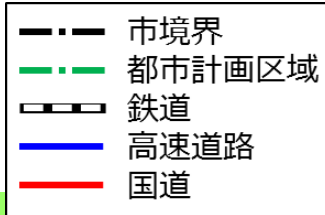
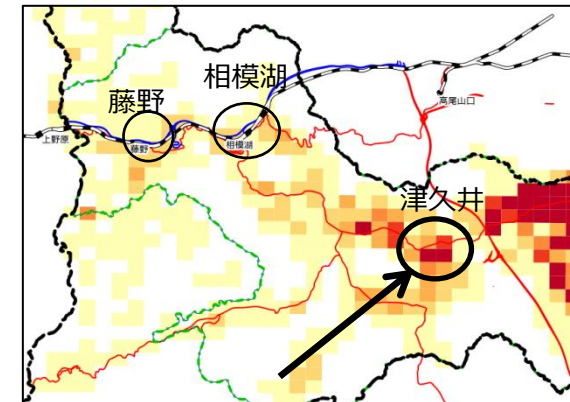
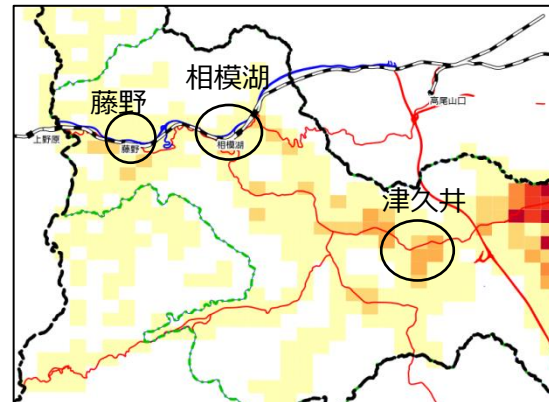
65歳～74歳

75歳以上

平成
22年



平成
42年



注) ・500メートルメッシュで集計
・人口が存在する(0以上の)メッシュのみ着色

中山間地域の人口推移

- 中山間地域（旧3町）の人口推移をみると、経年的に人口は減少。
- 地区別にみても、津久井の中心である中野地区を含めて、ほぼすべての地区において人口減少が見られる。
- 中山間地域においては、今後とも人口減少が見込まれることから、地区別の特徴を踏まえたうえで、今後のあり方を検討していくことが必要。

